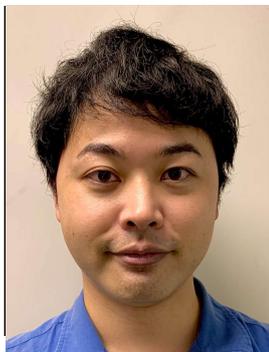


間質性膀胱炎に対するダイレクトリプログラミングにより作出した尿路上皮細胞の応用

① アピールポイント



専攻医
多賀 英人

我々の研究室では、セルアクシア株式会社と共同で研究を行い、ダイレクトリプログラミング法により、線維芽細胞から尿路上皮細胞へのコンバージョンに成功しています。(Inoue et al.Sci Rep. 2019)

② 研究の出口のイメージ

尿路上皮が欠損している間質性膀胱炎患者に対して臨床における有効な新規治療方法の提供を行うことでQOLの改善を目指していくことを目標としております。

キーワード

間質性膀胱炎、再生医療、細胞移植、ダイレクトリプログラミング

研究内容

本学の泌尿器科学教室は免疫学教室やセルアクシア株式会社と共同で研究を行い、ダイレクトリプログラミングによって、線維芽細胞から尿路上皮細胞細胞へと変えられることを報告しております (Inoue et al.Sci Rep. 2019)。モデルマウスに対して遺伝子導入や細胞の作製を行い、下記のような方法での治療法の開発について研究を行っております。

- 1) 間質性膀胱炎モデルマウスの作成
- 2) 治療方法の検討…モデルマウスに対する遺伝子導入や細胞移植
- 3) 治療評価…排尿記録測定、膀胱機能の評価、有害事象の評価など

